

佛敎學セミナ一

第 30 号

戒本の誦出とその意義……………佐々木教悟… 1		
——上座部佛教の僧伽を中心として——		
中国佛教における佛性思想の一側面……………古田和弘…16		
阿毘達磨佛教の言語論……………上杉宣明…26		
——名・句・文——		

* * *

苦と苦観・苦滅観の問題……………山口恵照…46		
——ウパニシャッドの考察から——		

書評・紹介

高橋弘次：法然浄土教の諸問題……………幡谷明…61		
原実：古典インドの苦行……………山下幸一…67		
山崎元一：アショーク王伝説の研究……………宇治谷顯…73		

* * *

佛教における Saddhā (信) の概念……………H・サッダーティッサ…78		
(訳) 柏原信行		

* * *

学会彙報……………92		
-------------	--	--

1979年10月

大谷大學佛敎學會

佛 教 学 セ ミ ナ ー

第 28 号

初期佛教における縁起説の位置づけ……………舟 橋 一 哉
——三枝教授の批判に答える——

自性清浄心の背景……………鍵 主 良 敬
——真諦訳撰大乘論の場合——

大乘菩薩道における「唯」の思想……………小 川 一 乗
唯識説における法と瑜伽行……………小 谷 信千代

《人と業績》

ヘルムート・フォン・グラレーゼナップ博士……………佐々木 現 順
——高貴なる魂の学——

《書評・紹介》

色井秀譲：浄土念仏源流考——大無量寿経とその周辺—— ……櫻 部 建
Francis H. Cook: Hua-yen Buddhism……………原 尻 恵 真
——The Jewel Net of Indra——

*

*

*

テーラワーダ佛教と大乘佛教……………W. ラーフラ
長崎 法潤 (訳)

¥ 700 〒 40

佛 教 学 セ ミ ナ ー

第 29 号

念 佛 と 戒……………坂 東 性 純

最澄の梵網戒受容と本覚思想……………白 土 わ か

滅諦・涅槃・彼分涅槃……………吉 元 信 行

説一切有部の「三世実有」説……………田 端 哲 哉
——三世と実有の原語と概念——

ヨーガ哲学における転変と時間……………山 下 幸 一

《書評・紹介》

Jan T. Ergardt: Faith and Knowledge in
Early Buddhism ……………太 田 清 史

丸山孝雄：法華教学研究序説……………三 桐 慈 海
——吉蔵における受容と展開——

¥ 700 〒 40

“*Mahāvārṇavatīśāstrāṇi an Illu-
strated Japanese Manuscript on Mu-
dras and Mantras*”, by Lokesh Ch-
andra, International Academy of
Indian Culture, New Delhi, 1970.
“*Text Critical Remarks on the Bo-*

dhicūṭhavadānakulapālāt, (*pālueas*
42-108)” — *Studia Philologica Bu-
ddhica Monograph Series II, The*
Reiyukai Library, Tokyo, 1979.
『変化観音の成立と展開』
佛教美術研究上野記念財団助成研究

会報告書第六冊、佛教美術研究上野
記念財団助成研究会 昭54
『中世の版本図録』
神奈川県立金沢文庫 昭54

執筆 者 紹 介

佐々木教悟

大谷大学文学部教授・文博
※リポジトリ非公開

山下 幸一

大谷大学特別研究員
※リポジトリ非公開

古田 和弘

大谷大学短期大学部助教授
※リポジトリ非公開

宇治谷 顕

大谷大学大学院修士課程
※リポジトリ非公開

上杉 宣明

大谷大学大学院博士課程単位取得
※リポジトリ非公開

柏原 信行

大谷大学特別研究員
※リポジトリ非公開

山口 恵照

大谷大学文学部講師・大阪大学文学部教授・文博
※リポジトリ非公開

H・サッ
テイッ
サ長老

ロンドン佛教協会主任 Ph. D

幡 谷 明

大谷大学文学部教授
※リポジトリ非公開

編集後記

本誌が産声をあげてから十五年、我が佛教学セミナーは今号で三十号を数えることになった。創刊のことばに、「いわば大空に飛び立つ前の羽ばたきにも似て、完成された大作を目ざすものではない。むしろそのための心がまえを整えようとして、互いに相たずさえて切磋琢磨することを目標としている」とひかえ目に述べられていたように、本誌は地道に佛教学の啓蒙と研究の歩みを進めてきた。その中でも、これから佛教学を研究しようとする学生諸君のために、ゼミをもつ本学スタッフたちが書き下ろした「道しるべ」のシリーズがあった。此度、本誌三十号の発刊を記念して、これら道しるべに更に手を加えて、一冊の単行本を作ることになった。それが本会の編集になる『佛教学への道しるべ』である。発刊は前号の予告よりいくぶん遅れて、五十五年二月になる。有縁の方々に是非お勧めいただきたい（左頁広告参照）。

本号では、特に、本学以前より出講頂いている大阪大学の山口恵照教授に玉稿を頂いた。また、以前本学大学院に籍をおかれたことのある佛教学の高橋弘次教授が著書を出されたので、それに対する書評を、本学真宗学科の幡谷教授にお願いした。御多用中のところ執筆頂いた両教授に御礼申し上げたい。

(吉元)

賛助会員募集

次の要項で賛助（定期購読）会員を募集いたします。会員には本誌を発行後すみやかに送りし、本会の出版物を割引価格でおわけします。

○年間会費（二冊分）

国内 一、五〇〇円

国外 一、八〇〇円

○申込み 603 京都市北区小山上総町

大谷大学佛教学研究

※申込みは郵便振替が便利です。

（京都 25503 大谷大学佛教学

研究室）

佛 教 学 セ ミ ナ ー

第30号

昭和 54 年10月 20 日 印刷
昭和 54 年10月 30 日 発行

¥ 700
U. S. \$ 3.50

編 集
発 行

大 谷 大 学 佛 教 学 会
発 行 者 櫻 部 建

京都市北区小山上総町22番
振替 京都 25503

印 刷

中 村 印 刷 株 式 会 社

発 売 所

文 栄 堂 書 店

京都市中京区寺町通三条上ル
振替 京都 2948 番
電 話 (231) 4712 番

佛教学セミナー30号発刊記念

大谷大学佛教学会編 『佛教学への道しるべ』

昭和55年2月刊

B6版 370頁、定価 2,500円（〒 200円）

文 栄 堂 刊

目 次

序

第一編 インド佛教研究への道しるべ

第一章	原 始 佛 教	舟 橋 一 哉
第二章	原始佛教——外国の文苑——	佐々木現順
第三章	戒 律 佛 教	佐々木教悟
第四章	アビダルマ佛教	舟 橋 一 哉
第五章	大 乘 經 典	櫻 部 建
第六章	中 觀 佛 教	安 井 広 濟
第七章	唯 識 佛 教	安 井 広 濟
第八章	インド佛教史	佐々木教悟
第九章	チベット文献	稲 葉 正 就

第二編 中国佛教研究への道しるべ

第一章	中国佛教研究法私見	横 超 慧 日
第二章	読解力の養成・必読すべき経論	横 超 慧 日
第三章	概説書・参考書・基礎資料	横 超 慧 日
第四章	学会誌と論文集	横 超 慧 日

第三編 インド学研究への道しるべ

インド学散策	雲 井 昭 善
--------	---------

第四編 日本佛教研究文献要覧

白 土 わ か
坂 東 性 純

本書は、今まで本誌に連載された各「道しるべ」に各執筆者が加筆・増補し、更に第一編第五章大乘經典と第四編日本佛教研究文献要覧を新たに加えたものです。

申込み先 会員・賛助会員、佛教学研究室（本誌とじこみの振替用紙を利用下さい）

一般、文栄堂書店又はもよりの書店

BUDDHIST SEMINAR

CONTENTS

Articles

- The Meaning of the 'Pātimokkhuḍḍesa'*Kyogo Sasaki* (1)
 An Aspect of the Conception of Buddha-nature
 in China *Kazuhiro Furuta* (16)
 An Analytical Approach to the Abhidharma.....*Nobuaki Uesugi* (26)
 —*nāma, pada, vyañjana*—

*

*

*

- Studies in the Concept of Pain with the Bases
 of the Early Upanishad*Esho Yamaguchi* (46)

Book Reviews

- Koji Takahashi: Some Problems in Hōnen's
 Pure Land Thought.....*Akira Hataya* (61)
 Minoru Hara: Tapas in the Mahābhārata.....*Kouichi Yamashita* (67)
 Gen'ichi Yamazaki: The Legend of Aśoka,
 a Critical Study.....*Akira Ujitani* (73)

*

*

*

- The Saddhā Concept in Buddhism*H. Saddhātissa* (78)
Nobuyuki Kashiwahara(tr.)

- Peports.....(92)

PUBLISHED FOR
 THE SOCIETY OF BUDDHIST STUDIES
 OTANI UNIVERSITY
 KYOTO, JAPAN